

榛葉賀津也

2018政治セミナー



7月29日、静岡市内のホテルにおいて、「2018政治セミナー」が開催され、本部辻村書記長・東海地区本部富田副委員長・静岡支部が参加しました。榛葉先生によるご挨拶で始まり、続いて松原仁衆議院議員を講師に、「北朝鮮拉致問題の現状」を話して頂きました。この問題は北朝鮮に何度も何度も裏切られてきていることを踏まえれば、許しがたいことであり、早期の解決を切にお願いしたいと思えます。

さて、「付度」という言葉がこれほどまでに世間を賑わしたことはない。森友学園や加計学園の疑惑にまつわる公文書隠蔽や改ざん、厚生労働省のデータ改ざん、極めつけは文部科学省の現役局長による補助金を悪用した裏口入学という信じられない事件が続いた。官僚の前代未聞の背信行為は、真面目に働く多くの公務員にとっては大変迷惑な話である。この不祥事は、立法府との緊張感の欠如の証であり、強すぎる与党と弱すぎる野党という現状が政府へのチェック機能が麻痺させている。

国民民主党は、「対決よりも解決」を目指しており、これまでの野党のように「反対のための反対」や「パフォーマンス目当ての反対」をやめ、賛成する法案は堂々と賛成し、反対する法案についてはその理由を明確にし、法案の改善を認めさせることに徹している。先の「働き方改革関連法」では、審議拒否も退席もプラカードを掲げての反対もしていない。残念ながら民主主義のルールで可決されてしまいが、その直前には与党と交渉を行い47項目にも及ぶ「付帯決議」を与党に認めさせた。

新聞等であまり報道されないが、政府が国会から重い宿題を課せられるわけだから、とても大事なことである。安倍内閣と与党はかつてない「右傾化」しているようにみえる。秘密保護法・安全保障法制・共謀罪の強行採決など。一方、リベラル野党の「左傾化」も気になる。パフォーマンス的な「何でも反対」は分かりやすいかもしれないが、国民の信頼は得られない。今、求められる政治は「真ん中を歩む政治」だと思う。国民民主党は右でもなく左でもなく、センターを真つすぐに堂々と歩んでいく。

来年夏、参議院議員選挙が実施され、私は改めて「常に初陣」の気持ちで4期目の出馬をする決意をした。これまでの経験を生かし、更に全力で活動してまいりますので変わらぬご支援ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。政治報告としたい。

加入者歓迎会を開催



豪雨で被害に遭われた方々へ心よりお見舞い申し上げます。

この度、多くの方々のご尽力により拡大が出来た。改めてお礼を申し上げ、今後更なる飛躍を目指していきたい」と力強い決意を述べられました。お忙しい中、ご来賓に東海地協尾内議長、静岡県協半田議長・鈴木賢二事務局長、県協ユース清水委員長にお越し頂き、代表として尾内議長の挨拶では、「私達の仲間になって頂き大変うれしく思う。今後も全面的に皆様をバックアップすることをお約束し、レク等を通じてこれまで以上に親交を深めていきたい」と心強いお言葉を頂きました。

続いて交運共済東海事業本部静岡営業所深沢所長よりご挨拶を頂き「今は違う場所で働いているが、かつて自分が教育した河曇君が加入してくれて嬉しく思う。勇気を持って決断をしてくれた彼を誇りに思う」と述べられ、東海地区本部荒井書記長挨拶では「地区本部

を代表し心より御礼申し上げます。これを気に組織拡大の流れを活発化し、他の分会でも拡大が出来るよう地区本部としても尽力したい」と述べられました。

仲間になった河曇洋樹君の挨拶では、自己紹介を交えながら「本日はお忙しい中、沢山の方に集まって頂き大変感謝している。未熟ではあるが今後ともよろしく願います」と力強く挨拶されました。続いて乾杯に移り、大杉本部委員長より、西日本豪雨での被害状況等を含めた現状報告をし、乾杯となりました。

歓談の席では終始、笑い声が絶えず、河曇君もすぐその場に溶け込むことが出来、酒を交わしながら親交を深めていきました。楽しい時間はあっという間に過ぎ、最後に和田静岡支部長より「一本締め」を行い、歓迎会を終えました。

